



日本生涯スポーツ学会
Japanese Society of Lifelong Sports

News Letter

2020 MAY

【目次】

- 会長就任挨拶
- 副会長就任にあたって
- 理事長就任にあたって
- 各委員会委員長あいさつ
- 新役員体制紹介
- 事務局長挨拶
- 日本生涯スポーツ学会第21回大会の報告
- 日本生涯スポーツ学会第22回大会のご案内
- 学会員からの情報提供
- 関連学会等情報
- 新入会員紹介

『会長就任挨拶』

日本生涯スポーツ学会 会長 萩 裕美子



まずはこの度のコロナウイルス感染症で、亡くなられた方、ご遺族の皆様にご心よりお悔やみ申し上げますとともに、罹患された皆さまにご心よりお見舞い申し上げます。

2020年は、待ちに待ったオリンピック、パラリンピックが日本で開催される楽みな年になるはずでした。ところが、オリンピック・パラリンピックの延期という歴史上初めての一大事に直面し、この難局をどう乗り越えるのか、今まさに我々はその歴史の転換点の上に立っています。

今年の2月頃からスポーツイベントはことごとく中止、あるいは無観客試合となり、大相撲の初場所もこれまでに見たこともない奇妙な状況でした。プロ野球も、Jリーグも、Bリーグも、街の様々なスポーツイベントも、日に日に中止や延期になりました。これまで当たり前のように実施してきたスポーツイベントが、目に見えないウイルスの影響で、いとも簡単にできない状況になりました。これまであまり意識をしていなかった安心、安全の上に、様々なスポーツ活動が成り立っていたことをつくづく感じました。

それではスポーツは整えられた環境でなければできないものなのでしょうか。2011年の東日本震災の折に、生活がままならない状況中でも、スポーツが人々を勇気づけ元気づけてきたことも事実です。スポーツの持つ、爽快感や満足感、楽しさは私たち人間にとって、生きる力を与えてくれる、なくてはならないものです。今、全国に緊急事態宣言が出され、自宅待機、外出自粛が求められています。あらためてスポーツが私たちの生活に様々な楽しさを与えてくれたことを再確認しました。さらに、運動不足が死因の3位という社会的課題がありながら、運動不足が一層加速され、健康の二次被害も心配されています。

日本生涯スポーツ学会は、どのような状況にあっても、社会情勢の変化をしっかりとらえながら、我々が果たすべき役割を常に考え、工夫して、社会に貢献できる学会でありたいと思います。様々な困難がこの先もあるかと思いますが、一人一人ができることを一生懸命頑張っていきたいと思います。

このニュースレターが出るころには、少しは社会が平穏な生活ができていることを切に望んでいます。



『副会長就任にあたって』

仲野 隆士(仙台大学)



この度、学会副会長に就任させていただくことになりました仙台大学の仲野と申します。学生時代からレクリエーションやニュースポーツ、あるいはキャンプ等の野外活動領域に興味関心が高く、指導実践に明け暮れていました。大学教員になってからも、研究や学生への教育、社会貢献活動などを通して継続してきました。さらに、スペシャルオリンピックス(国際的なスポーツのボランティア組織)が展開する、知的障害のある人々の自立と社会化の促進を目的に、日常のスポーツプログラムと世界大会を頂点とする各種の競技大会を提供するボランティア活動に長く携わってきました。そういった、一連の各種指導実践を通して培ってきた知識やノウハウを本学会の発展に少しでも役立てればと考えています。

2011年に発生した東日本大震災の復旧・復興期において、レクリエーションに携わる我々関係者は、日本各地で大いに活躍し貢献することができました。しかしながら、今回の新型コロナウイルス感染ばかりは、直接支援という観点では手も足も出せません。我々の活動が特性上3密を伴うからです。生涯スポーツの指導もしかりでしょうか。

一日も早く、気兼ねなく笑顔で会話できる日常が戻ることを祈ります。

『理事長就任にあたって』

長ヶ原 誠 (神戸大学)



この度、本学会の理事長を拝命しました。会員の皆様方におかれましては、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中で、大学や研究機関、スポーツ関連団体等での研究・教育・支援活動等においてそれぞれのご苦勞を強いられていると思います。皆様方の心身のご健康と共に、一刻も早いこの事態の終息を切に祈っております。

スポーツの世界も深刻な影響を多方面で受け、そのダメージの深さは計り知れず、スポーツが無い日常はこれだけ辛く寂しいものかということを感じております。また、同時にこの社会情勢においてスポーツの多様な可能性と課題を見つめ直していく必要性も感じております。本学会はこの逆風の中で、人生を活性化する生涯スポーツの可能性を強く押し上げ、さらなる高みを目指す新たなステージを迎えているのではないのでしょうか。生涯スポーツの可能性を追求、発信し、会員の皆様と共に社会に寄与できる学会へとさらに発展させていきたいと考えております。今の現実を皆で乗り越え、人々と社会の閉塞感がやがて解放感に変わる時には、スポーツのもつ普遍的価値と共に、新たな潜在的価値にも出会えることを楽しみにしましょう。どうぞよろしくお願い致します。

『編集委員会委員長就任にあたって』

伊藤 克広(兵庫県立大学)

この度、編集委員会委員長を仰せつかりました兵庫県立大学の伊藤克広と申します。どうぞよろしくお願いいたします。新編集委員会は、前年度まで編集委員を務めてこられた竹内亮先生(大阪体育大学)に副委員長を務めていただき、涌井佐和子先生(順天堂大学)、前田博子先生(鹿屋体育大学)、久保和之先生(龍谷大学)、伊藤央二先生(和歌山大学)に新たにご就任いただき、ガッチリとスクラムを組んで“One Team”で進んで参ります。



本学会誌は、学会員の研究成果を世界に発信するメディアであると共に学会員同士の情報交換の場として非常に重要な役割を果たしております。これまで本学会誌発行に携わってこられた先生方の意志を引き継ぎまして、学会員の皆さまと共に本学会誌がさらに発展していくよう尽力して参ります。何とぞよろしくお願いいたします。

『研究企画委員会委員長就任にあたって』

再びの「ONE TEAM」、そして「WMG」への期待 石澤 伸弘 (北海道教育大学)

本来であればわが国は「ゴールデンスポーツイヤーズ」に突入し、昨秋のラグビーワールドカップ(RWC)、今夏の東京オリンピック・パラリンピック 2020(オリ・パラ)、そして、来春のワールドマスターズゲームズ(WMG)と、3年連続でメガ・スポーツイベントが開催される予定でした…。しかし、コロナ渦の影響でオリ・パラはあえなく延期となり、現在ではその実施すら危ぶまれている状況です。



元ラグーマンの筆者は昨年9月22日のRWC イングランド VS トンガ戦を、大枚をはたいて購入し、観戦しました。開催前まではその盛り上がりが危惧されていたRWCでしたが、蓋を開けてみれば日本代表のベスト8進出の躍進もあり、大成功の内に終了致しました。期間中、毎日のように話題に上っていた「ONE TEAM」のフレーズですが、現在の社会情勢、そしてこれからの復興に際して、改めてその真価が問われているように思います。これを契機に、世界中にRWC2019の「レガシー」ともいえる、「ONE TEAM」のマインドが再発信されればと祈念しております。

またオリ・パラに関しては、幸運なことに自宅がある札幌で行われるサッカーの予選が当選しておりました。マラソンと競歩の札幌移転も決定し、テンションが否が応にも上がっていただけに、現在は代表選手以上の喪失感に苛まれております…。かくなる上は来年に向けて身体を造り、2大会連続で WMG に、「アスリート」としてエントリーをしたいと考えております(笑！)。

※筆者は前回(2017年)のWMG(於オークランド, NZ)に、長ヶ原理事長率いるチームの一員として、「硬式野球」で参加し、銅メダルを獲得したのです。

『広報委員会委員就任にあたって』

工藤 保子 (大東文化大学)

この度、3期目の広報委員長を仰せつかりました工藤保子です。1期目はホームページとFacebookを一体化させた新たな公式ホームページを開設し、2期目は学会員への情報提供の充実を図るために「会員専用ページ」を開設しました。本ニュースレターに案内文を同封しましたのでご確認下さい。是非とも積極的に活用ください。また、併せてメーリングリストの運用も検討しております。登録用のメルアドの確認等、今後ご協力いただければ幸いです。より良い広報活動を模索したいと思います。



【新役員体制紹介】

日本生涯スポーツ学会 役員・顧問・事務局

(任期:2019年度総会終了後～2021年度総会まで)

<敬称略>

会長	萩裕美子 (東海大学)
副会長	仲野隆士 (仙台大学)
理事長	長ヶ原誠 (神戸大学)
顧問	野川春夫 (順天堂大学) 川西正志 (北翔大学) 山口泰雄 (流通科学大学) 田畑 泉 (立命館大学)
編集委員会	委員長 伊藤克広 (兵庫県立大学) 委員 伊藤央二 (和歌山大学) 久保和之 (龍谷大学) 竹内 亮 (大阪体育大学) 前田博子 (鹿屋体育大学) 涌井佐和子 (順天堂大学)
研究企画委員会	委員長 石澤伸弘 (北海道教育大学) 委員 工藤康宏 (順天堂大学) 藤本淳也 (大阪体育大学) 松永敬子 (龍谷大学) 山口志郎 (流通科学大学)
広報委員会	委員長 工藤保子 (大東文化大学) 委員 岡安 功 (広島経済大学) 高見 彰 (大阪国際大学) 松本耕二 (広島経済大学) 師岡文男 (上智大学) 柳川尚子 (健康・体力づくり事業財団)
監事	富山浩三 (大阪体育大学) 二宮浩彰 (同志社大学)
事務局	事務局長 久保田晃生 (東海大学) 事務局員 秋吉遼子 (東海大学) 松下宗洋 (東海大学)

『 事務局長挨拶 』

久保田 晃生(東海大学)



本学会の事務局長を担当しています東海大学 体育学部 生涯スポーツ学科の久保田晃生です。事務局は、東海大学の秋吉遼子先生、松下宗洋先生と試行錯誤をしながら進めています。会員の皆様にご迷惑をお掛けしないように、進めていきたいと思っております。何かお困り事や本学会をよりよくしていくためのご意見など、忌憚なく事務局までご連絡願います。なお、個人的なことになりますが、本学会員になったのは、初代会長長の波多野義郎先生の教え子であったことからです。会員の皆様も何らかの繋がりが、会員になられたと思います。是非、思い入れを持ちながら、学会活動にご支援を頂ければ幸いです。どうぞ、宜しく願い申し上げます。

日本生涯スポーツ学会第21回大会のご報告

2019年8月29日(木)～30日(金)の2日間にわたって開催された第21回学会大会は、遠路にも関わらず多くの方々が会場に足を運んでいただき活発な研究発表でのディスカッションがみられるなど、大会が成功裏に終えることができましたことに、実行委員会を代表して御礼申し上げます。

日本生涯スポーツ学会第21回大会実行委員会

委員長 川西 正志

- 期 日：2019年8月29日(木)～30日(金)
- 会 場：北翔大学(北海道江別市)30日、北翔大学札幌円山キャンパス(北海道札幌市)29日
- 主 催：日本生涯スポーツ学会
- 運 営：日本生涯スポーツ学会第21回大会実行委員会
- 後 援：北海道教育委員会、札幌市教育委員会、江別市教育委員会
- 協 力：公益財団法人アイヌ民族文化財団
- 協賛企業・団体(9団体)：
 - 味の素株式会社、有限会社市村出版、財団法人江別市スポーツ振興財団、大阪体育大学
 - 一般財団法人さっぽろ健康スポーツ財団、セノー株式会社、ヘルスグリッド株式会社
 - 北翔大学、公益財団法人健康・体力づくり事業財団

- 大会名誉会長 山谷敬三郎(北翔大学 学長)
- 大会会長 山口 泰雄(日本生涯スポーツ学会 会長)
- 大会実行委員会
 - 委員長 川西 正志
 - 副委員長 佐々木浩子、竹田 唯史、増山 尚美
 - 委員 小田 史郎、小坂井留美、畝中 智志、黒田 裕太、永谷 稔
 - 横山 茜里、吉田 真、花井 篤子、石澤 伸弘、関 朋昭、松岡 小春

■ 大会テーマ

東京オリ・パラ2020競技大会の生涯スポーツへのレガシー
—する・みる・ささえるスポーツへの北からのメッセージ—

■ 大会日程

8月29日(木)		8月30日(金)	
8:00	受付	7:30	モーニングエクササイズ
9:00	開会式・アイヌ古式舞踊		ポスチュアウォーキング
9:30	基調講演		KIMIKO
10:30	シンポジウム	8:00	受付
12:30	総会	9:00	口頭発表 I
13:15	昼食・味の素ランチョンセミナー	12:00	よさこい演武
14:15	若手研究発表	12:15	昼食
15:15	ポスター発表	13:15	口頭発表 II
19:00	懇親会(北海道ビール園)	14:15	閉会式

- 大会参加者 190名
- 発表演題数 若手発表:4題 一般口頭発表:31演題 ポスター発表:34題

■ 基調講演

- 演題 The Expectation on Legacy for Lifelong Sport of 2020 Tokyo Olympics and Paralympics Games—Case of Taiwan Experience on Sport for All Promotion
 演者 Kao,Chin-Hsung (MBA, Ph.D)
 Director General Sports Administration,Ministry of Education, ROC (Taiwan)
 高 俊雄氏 (台湾スポーツ長官)
 司会 花井 篤子氏 (北翔大学 教授)
 通訳 井出幸二郎氏 (北翔大学 教授)

■ シンポジウム

- 演題① 「するスポーツの立場から」—夢と感動を与えるスポーツの魅力—
 演者 石崎 琴美氏 (社会医療法人松田整形外科記念病院)
 演題② 「みるスポーツの立場から」—ファイターズの地域密着経営—
 演者 藤野 功氏 (株式会社北海道日本ハムファイターズ)
 演題③ 「ささえるスポーツの立場から」—地域スポーツ環境の整備への更なる期待—
 演者 伊端 隆康氏 (総合型地域スポーツクラブ全国協議会幹事長)
 司会 石澤 伸弘氏 (北海道教育大学札幌校)、永谷 稔氏 (北翔大学)
 指定討論者 川西 正志氏 (北翔大学)

■ 大会企画

- モーニングエクササイズ「ポスチュアウオーキング」
 講師 KIMIKO (株式会社 THE POSTURE 代表取締役)
 (一般社団法人ポスチュアウオーキング協会 理事長)
 よさこい演舞
 演者 北翔大学 YOSAKOI ソーランサークル～友和～
 (とわ)



ポスチュアウオーキング

■ 表彰

○ ポスター発表賞(大学院生部門)

【最優秀賞】

- 胡 戎(和歌山大学大学院) 伊藤央二(和歌山大学)
 「訪日中国人スキーツアー観光客における感情評価理論の援用
 —理想感情と実際感情の比較に関する研究—」

【優秀賞】

- 出戸寿明(神戸大学大学院) 長ヶ原 誠(神戸大学) 彦次 佳(和歌山大学)
 谷めぐみ(湊川短期大学) 藺田大地(神戸大学アクティブエイジング研究センター)
 青山将己・松崎 淳・乾 淳紀・山下耕平・三浦敬太(神戸大学大学院)
 「国際生涯スポーツイベントの開催準備期における大会関連事業のプロセス評価
 —ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の開催地に注目して—」

○ ポスター発表賞(学部生部門)

【最優秀賞】

- 森脇瑠香(和歌山大学観光学部) 伊藤央二(和歌山大学)
 「男子との野球経験の有無による女子硬式野球選手の自己効力感と
 集団効力感の類似・相違点について」

【優秀賞】

- 荒木拓海・竹本朱理亜・寺尾佳苗・深津那菜・藪谷諒真・山本陽子(和歌山大学観光学部)
 伊藤央二(和歌山大学)
 「少年サッカーにおけるスポーツペアレンティングと選手の有能感に関する研究」

○ 若手研究発表賞 該当者なし

■ 記録写真



北翔大学学長山谷氏挨拶



アイヌ古式舞踊



基調講演 高俊雄氏



シンポジスト 石崎氏 藤野氏 伊端氏



口頭発表風景



ポスター発表賞大学院生部門最優秀賞
最優秀賞 胡 戎(和歌山大学大学院)



同賞優秀賞

出戸寿明(神戸大学大学院)



ポスター発表賞学部生部門最優秀賞
森脇瑠香(和歌山大学)



ポスター発表賞学部生部門優秀賞 荒木拓海他(和歌山大学)



日本生涯スポーツ学会第22回大会のご案内 (現状報告)

<大会概要>

期日:令和2年10月31日(土)・11月1日(日)

会場:仙台大学 (宮城県柴田郡柴田町船岡南二丁目2番18号)

船岡駅(JR東北本線)下車徒歩10分程度

主催:日本生涯スポーツ学会

運営:日本生涯スポーツ学会第22回大会実行委員会

<大会テーマ>

東北より2020復興五輪への歩みと効果を検証する



<大会日程>

10月31日:基調講演・シンポジウム (LC棟1F)

ポスター発表 (B棟2F・3Fのフロアの予定)

懇親会 (ホテル原田 in さくら:JR船岡駅前)

11月1日:一般研究発表 (LC棟2階で2会場を設定予定) その他(現在検討中)

<基調講演>

- テーマ 「スポーツ地域マネジメント」
- 演者 原田 宗彦 (早稲田大学)

<シンポジウム>

- テーマ 「東北より2020復興五輪の歩みと効果を検証する」
そのプロセスや具体的な取組・効果・問題や課題等について福島・宮城・岩手3県からの情報発信や問題提起を中心に展開する。
- シンポジスト 上田 栄治(福島県Jビレッジ副社長)
Jビレッジの取組み及び福島の歩み
熊谷 大(宮城県利府町長)
宮城スタジアムを有する利府町の取組み及び宮城の歩み
木村 久(岩手県文化スポーツ部オリパラ推進室長)
ラグビーWCを開催した釜石復興スタジアムの取組みと効果及び岩手の歩み

<その他は未定>

コロナ問題等により広告協賛企業の獲得が困難を極めることが予測されることから、予算確保の関係上、一昨年・昨年のような賑やかなアトラクションは実施不可能と思われる。現段階では、シンプルな学会を開催予定。参加費・参加条件等は、概ね昨年と同様としたい

<大会に関するお問い合わせ>

日本生涯スポーツ学会第22回大会実行委員会事務局(仙台大学) 馬研究室

担当者:馬 佳濠 (マ ケイモウ) Email:jm-ma@sendai-u.ac.jp FAX:0224-55-1336

【学会員からの情報提供】

□国際会議レポート：柳川尚子（公益財団法人健康・体力づくり事業財団）

『第26回 TAFISA ワールドコンGRESS 2019 東京』

The Association For International Sport for All : TAFISA は、世界 170 か国・地域に 350 を越える加盟団体を持つスポーツ・フォー・オール国際統括団体で、日本からは、日本スポーツ協会、笹川スポーツ財団、日本レクリエーション協会、健康・体力づくり事業財団の4団体が TAFISA-JAPAN を構成して加盟しているとともに、山口泰雄・前日本生涯スポーツ学会会長が TAFISA 理事/TAFISA-JAPAN 理事として参画している。TAFISA は、2年に1度、世界中のスポーツ・フォー・オール団体や関係機関等を集めてスポーツ・フォー・オールの理念や身体活動を推進するための国際会議・TAFISA ワールドコンGRESSを開催しており、昨年、1993 年の千葉大会以来 26 年ぶりに日本へ招致した。本学会員の多くが運営・発表に協力・参加したことから、概要を報告したい。

本コンGRESSは、2019 年 11 月 13～16 日に、都市センターホテル(東京都千代田区)で開催され、78 か国・地域から 638 名の参加があった。超高齢社会の日本におけるこれからのスポーツ・フォー・オールの在り方を世界が注目していることから、テーマは「Sport for All through Tradition and Innovation」とし、Happy Aging、Made to Play、Design Your Policy、Building Communities、Impact through Innovation のサブテーマを設け、全体会での基調講演やパネルディスカッション、分科会ごとに各国から4～5の事例報告を受けて全員で討議した。

基調講演は、日本側から鈴木大地・スポーツ庁長官、TAFISA 本部からはオーストラリアのStuart Biddle サザンクイーンズランド大学教授がそれぞれ行った。Biddle 教授は数か国の身体活動・座位行動に関するガイドライン策定にかかわる身体活動心理学の専門家で、「スポーツ・フォー・オール：伝統と革新～どのようなアプローチがベストなのか～」をテーマに、近年は 24 時間を通じた活発なライフスタイルが推奨されており、その実現には、より楽しく、より簡単に運動へ誘導する行動変容科学を盛り込んだアクティブシティを構築していくことが効果的なアプローチだと述べた(ユーチューブに動画を投稿した方がいるので、詳細はそちらへ)。また、日本からは、分科会において長ヶ原誠・本学会理事長(神戸大)による「Active Aging : Masters Sports Promotion in Japan」をはじめ、アクティブ・チャイルド・プログラムや超人スポーツを報告した。コンGRESS必須のアクティビティには「運動会」を企画し、コンGRESS参加者はハチマキの色を選んで4組に分かれラジオ体操やだるま運び、玉入れなどに汗を流した。

本コンGRESSで特筆されるものに、ポスタープレゼンテーションを挙げたい。山口氏の発案で、これからの若い力を育てることを目的に初めてスチューデントアワードが設けられた。主に大学院生より 13 本が投稿され、一人ずつ果敢に英語によるプレゼンを行った。隠れ審査員となっていたが、かなりわかりやすく野川春夫氏(順天堂大)と松尾哲矢氏(立教大)が厳しく、温かく審査されていた。



本学会会長である萩裕美子氏(東海大)もポスターに投稿。ポスターセッションの座長には、山口志郎氏(流通科学大)、工藤保子氏(大東文化大)、工藤康宏氏(順天堂大)ら本学会員があつた。



【関連学会等情報】

『2020 横浜スポーツ学術会議 (The 2020 Yokohama Sport Conference)』

2020 年 9 月 8 日～12 日 [日本 横浜市]

<http://www.yokohama2020.jp/>



『第 7 回 TAFISA 世界スポーツ・フォー・オールゲームズ』

2020 年 10 月 1 日～7 日 [ポルトガル リスボン](予定)

<https://www.tafisalisboa.com/en/>



『第 10 回ワールドマスターズゲームズ 2021 関西』

2021 年 5 月 14 日～30 日 [日本 関西全域 2 府 7 県]

<https://wmg2021.jp/>

<情報提供責任者: 広報担当理事 師岡文男>

【新入会員紹介】 2019 年 4 月～2020 年 4 月 20 日現在 理事会承認分

<個人会員>

董 曉妍(兵庫県立大学大学院)	梶原 康平(兵庫県立大学大学院)	石盛 真徳(追手門学院大学)
辺士名 齊朝(名桜大学大学院)	五十嵐 美生(北翔大学大学院)	神野 賢治(富山大学)
清宮 孝文(日本体育大学大学院)	依田 充代(日本体育大学)	竹越 麻子(北翔大学)
山田 奈美恵(北翔大学)	久湊 太雅(富山大学大学院)	花井 篤子(北翔大学)
小向 啓介(北翔大学大学院)	小田 美幸(順天堂大学大学院)	二階堂 萌恵(東海大学大学院)
下水流 将太(鹿屋体育大学大学院)	西 葉月(東海大学)	村瀬 仁志(富山大学大学院)
足立 名津美(京都先端科学大学)	石岡 元(大阪体育大学大学院)	吉原 さちえ(東海大学)
河野 真輝(大阪体育大学大学院)	大山 祐太(北海道教育大学)	内田 遼介(流通科学大学)
吉中 康子(京都先端科学大学)	鈴木 規美子(北翔大学大学院)	佐々木 達也(城西大学)
中曾根 裕(仙台青葉学院短期大学)	祐末 ひとみ(びわこ学院大学)	馬 佳濛(仙台大学)

<学生会員>

黒岩 秀圭(東海大学)	黒川 由登(東海大学)	植田 かの子(東海大学)
田中 翔馬(東海大学)	山本 陽子(和歌山大学)	荒木 拓海(和歌山大学)
深津 那菜(和歌山大学)	竹本 朱理亜(和歌山大学)	藪谷 諒真(和歌山大学)
袖山 翼(東海大学)	齋藤 修也(東海大学)	石井 大貴(広島経済大学)
箕浦 和也(広島経済大学)	林田 まゆみ(広島経済大学)	寺尾 佳苗(和歌山大学)
熱田 航佑(順天堂大学)	八幡 将人(流通科学大学)	宮本 昂英(流通科学大学)

(入会順、敬称略)

【編集 日本生涯スポーツ学会 広報委員会】

日本生涯スポーツ学会事務局

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目 4-1-1 東海大学 体育学部生涯スポーツ学科 久保田研究室気付

TEL : 0463-58-1211 (内 3594)

E-mail: jp.lifelong.sport@gmail.com HP : <https://jsls.jp>